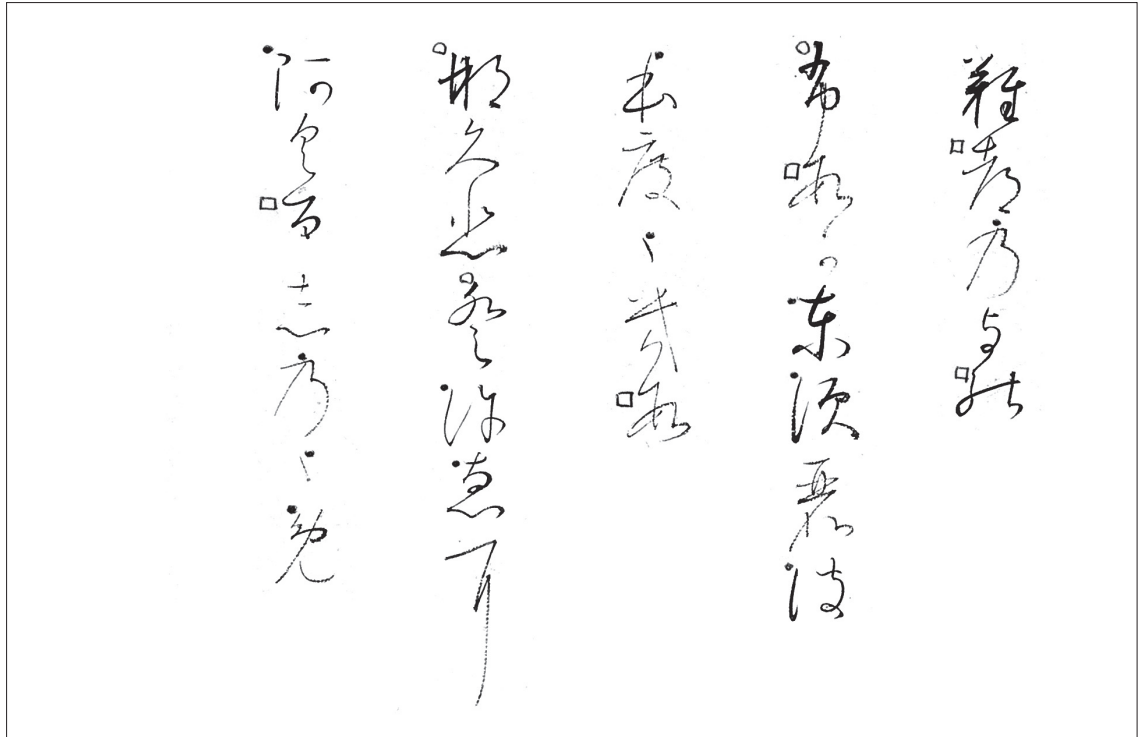


◆半紙横五行に臨書して下さい。出品料440円



ぎよぶつ 御物^{ぎよぶつ}和漢朗詠集

第四回

1、字句難部乃与能布敷可東須羅波本度なつのよのふすかとすればほとゝぎす
那久悲登許耳阿具留志乃免なくひとこゑにあくるしのゝめ

2、形式◎半紙を横に使い、うたを5・7・5・7・7の五行で臨書する。落款は六行目に本文に添う大ききで「○○臨」と入れる。

3、概観◎「草仮名」に挑戦します。

「草仮名」とは、万葉仮名を草書体で書いたもので、平仮名ほどには単純化されていないものをいったが、後には片仮名以外の仮名を草仮名というようになった。草仮名体は俗に変体仮名とも称している。(書法用語辞典)とあるように、草仮名◎変体仮名と考えてよいように思います。今回のシリーズでとりあげた和漢朗詠集は、漢字(楷行書・草書)のみ(漢詩の部分)・草仮名のみ・漢字と草仮名交じり・女手(いわゆる仮名)などの書体を用いて書かれています。今後詳しく学ぶ変体仮名ではありますが、今回、変体仮名ばかりの一首を「草仮名に挑戦」として先取りしてみました。

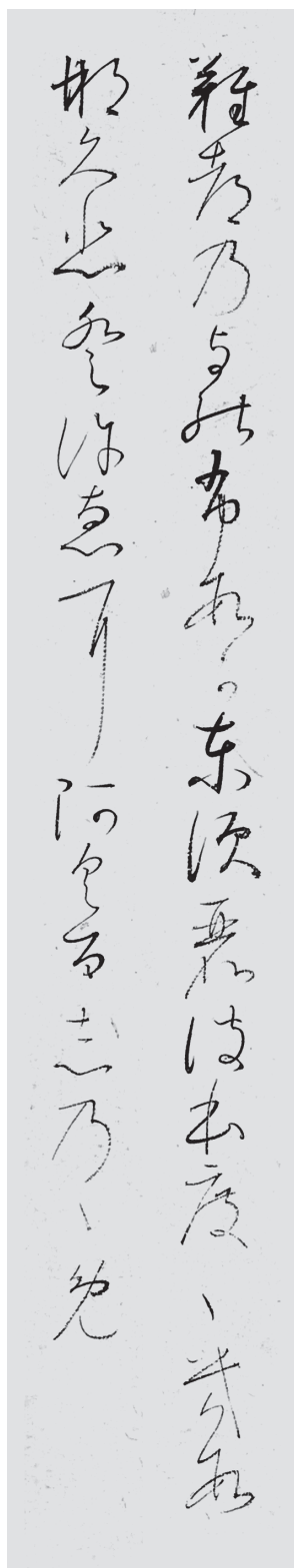
4、学習のポイント

◎書体は草書体。第一回目の単体で学び直した起筆・収筆の筆使いを生かして書くこと。

①一筆目をスーッと入筆(・)「乃(二ヶ所あり)、東、須、波、本、(おどり字、二ヶ所あり)、許、恵、阿、免」

②一筆目を止めて入筆(○)「布、那、登」

③連綿から、当たって一筆目を開始(□)「都、能、数(二ヶ所あり)、留」



条幅随意部として

『なつのよのふすかとすればほとゝぎすなくひとこゑにあくるしのゝめ』

難都乃与能布数可東須麗波本度、幾数那久悲登許恵耳阿具留志乃、免

と、半切二行に臨書する。『草仮名』であることを意識し、漢字の草書体とならないよう、筆使いを研究すること。落款は全体の調和を考えた位置に「〇〇臨」と入れる。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご活用下さい。抜粋可。

条幅部は一枚目無料、二枚目から五五〇円。

バーコード券に「条臨」とご記入下さい。名簿は条幅部で「臨」と表示されます。

一字書（七月二十二日締切）

課題

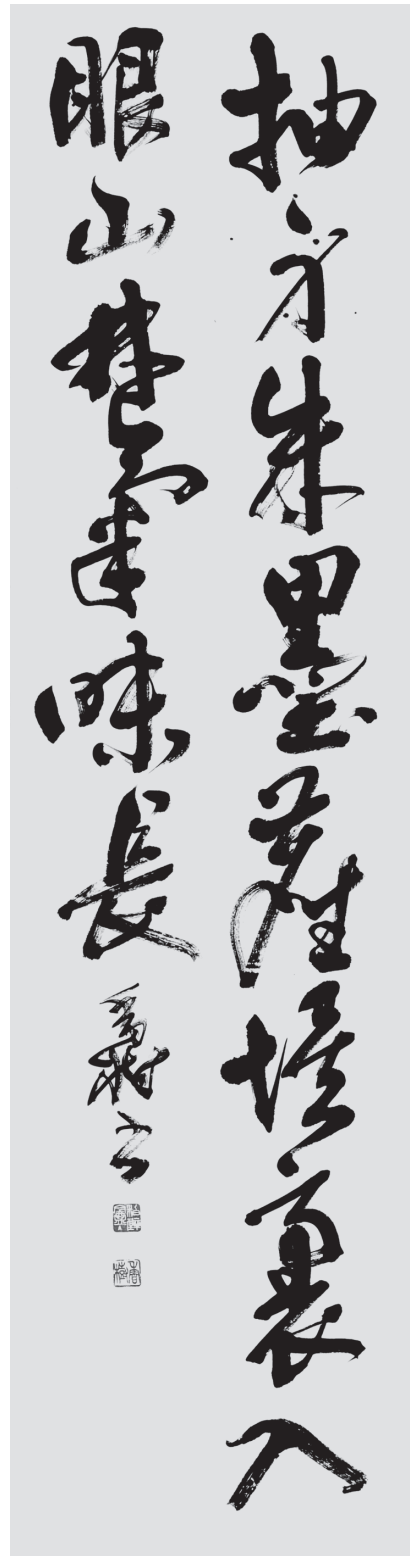
藍

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に

一字と記入 段級は無記入

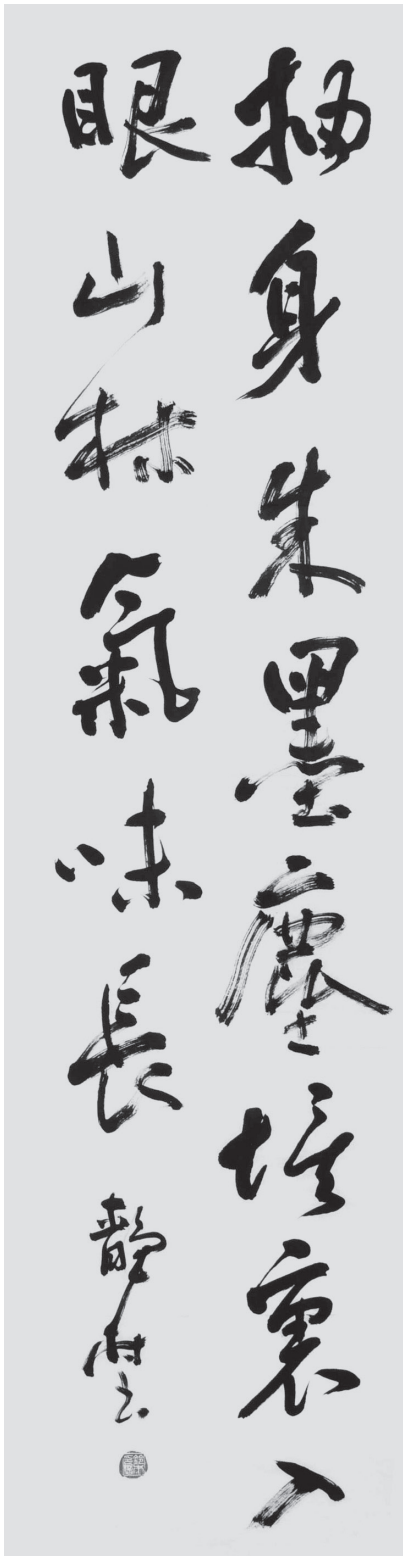
A 高橋香樹会長書

抽身朱墨塵埃裏 入眼山林氣味長(楊誠齋)
身を抽く朱墨塵埃の裏、眼に入る山林気味長し。



今月は連綿草を試みようと思書ははじめたが、仲々思うように書けず、結局、行草半々の作となってしまった。連綿線も多くはないが、終画では次字への意識を持つように心懸けた。文字の大小により、左右の行が並ばないようにした。墨継ぎは「挨」と「林」。

B 鈴木静村先生書



ポイント 一字内の脈絡と活線。潤線・渴線なりにそれぞれ「活き」の表出。せめて一字内での脈々とした一貫性の表出。初歩段階者にはまず、必須要点。抽 手偏を強めて。墨 頭部大きく、「土」点は打たなくても可。埃 墨継ぎ。裏 省略書体多い、字典参照。入 小さくも強く。山林 連綿。渴筆線強く。氣 墨継ぎ、「米」書き方多い。味 切れ切れでも意連を。

訳：身をぬき出して世の外に出すには、詩の推敲添削などがよいが、眼に映ずる山林の景は情趣が深い。

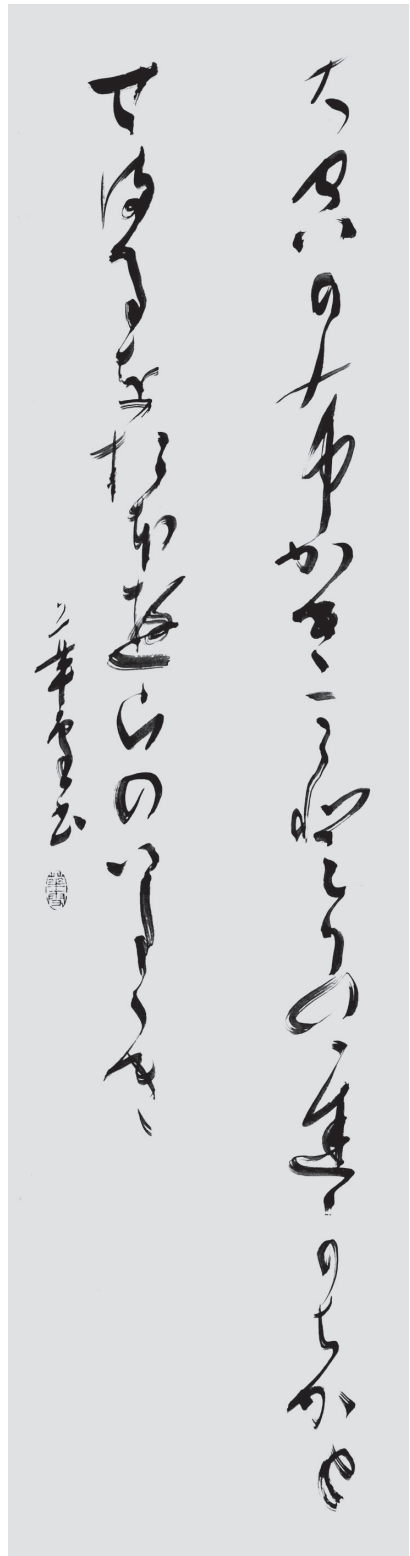
予告 (八月二十二日締切) 風來蘋末聊自快 暑滿人間無處逃 (龐鑄)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

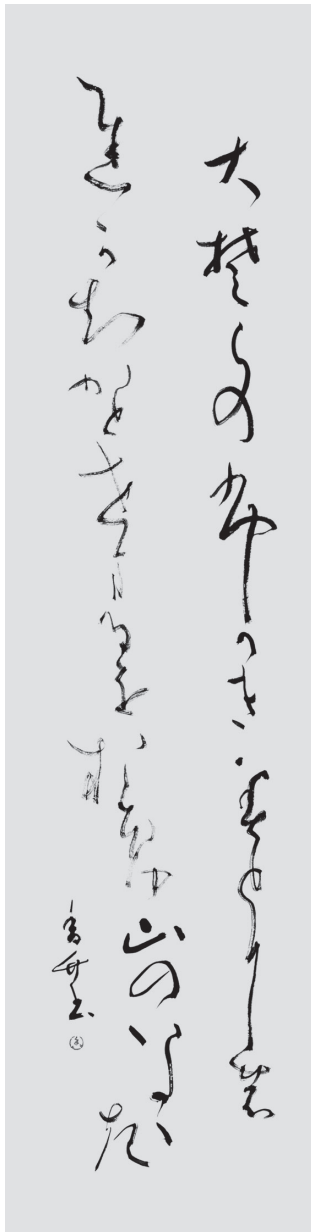
大空のふかき緑のちかぢかと迫るをおぼゆ山のいただき (尾上柴舟)
大空の布かき三登りの遅可ちかとせ満るを於本遊山のい多、き



B

青柳香竹先生書

大楚らの布可き美とり農遅可知かと世万るを於本ゆ山のい多、起



尾上紫舟

明治九年(一八七六) - 昭和三年(一九五七)
岡山生まれ。芸術院会員。歌集「銀鈴」「静夜」等。詩集、歌論、国文学研究等多数。歌風は温雅で自然観照的である。「粘葉本和漢朗詠集」の研究など、古筆を学び、端正な書風である。

学び方

表現の要素にはいろいろあります。
一つには、墨量の多い書き始めは速めの運筆をし、墨が洒れてきたら速度を落としてかすれを調節しながら書きま
す。
今回も二行目は多目の墨量で速めに筆を動かし、幅の狭い文字で引き締めました。二行目は幅や密度の変化をつけ
「於本ゆ」までゆっくり筆を運び、渴筆で表現しました。終句だけに墨継をし、「い多、起」の「起」を添えて、ゆら
ぎをおさえ、落ち着かせて仕上げました。参考になればと思います。

予告 (八月二十二日締切)

窓近きいさゝむら竹風ふけば秋におどろく夏の夜の夢(新古今和歌集 春宮大夫公継)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条 幅 部 随 意 参 考

高橋 紫芳先生書

緑楊近浦堪垂釣 翠竹當軒好韻琴 (路半千)
 緑楊浦に近く釣を垂るるに堪えたり、翠竹軒に当り琴を韻するを好む。

緑楊近浦堪垂釣
 翠竹當軒好韻琴

訳：青々たる楊柳の入江に近く魚を釣るによいが、青々たる竹が軒に接して琴をひくにもよいのである。

内藤 香瑶先生書

はちす葉のにごりに染まぬ心もてなにかはつゆを珠とあざむく (古今和歌集 僧正遍昭)
 八知す葉乃尔こり二志万ぬ心も帝奈尔か者都遊乎堂万と安さ無九

はちす葉のにごりに染まぬ心もてなにかはつゆを珠とあざむく
 八知す葉乃尔こり二志万ぬ心も帝奈尔か者都遊乎堂万と安さ無九

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

水貝潮華先生書

表秋の中なるが悲し聖廢墟

水原秋桜子『残鐘』

今月は、昭和二十七年作の水原秋桜子の俳句を選びました。前書に「浦上天主堂」とあり、原爆被災の浦上界限は、いまや一面の麦畑に。そこには廢墟となった天主堂が立っている。という句です。墨をタップリと、力強く、漢字は大きめに、一字ずつを刻むように紙面に書き込み、余白を十分に取しながら「聖廢墟」を単独に配置しています。使用筆は羊毛の中鋒筆です。まず皆さんは、題材を読み、イメージを固めてから構成を考え、墨量・筆・紙を選び、独自の作品を作り出して下さい。掲載の課題作品は参考です。



水原秋桜子（一八九二～一九八一）
俳人。

東京神田生まれ。医師。もと窪田空穂に短歌を学び、高浜虚子門に入り、高野素十・阿波野青畝・山口誓子との四S時代を築き、「ホトトギス」の黄金期をもたらした。のちに虚子から離れ、「馬酔木」を主宰。主観写生を唱え、文語定型の新興俳句を推進した。

句集『葛飾』『晩華』『霜林』『帰心』など。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料550円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

宿雨松篁の色(范成大)

訳：降りつづく雨には松や竹に
みどりの色を添え

宿雨松
篁色

〈字形がとりにくい「色」〉
「色」は、上(ナ)中(ヨ)下(リ)の三部分構成。上部の形に注意。中はしめて、下部の「浮鷺」のびやかに迷いなく。特に、曲がりスムーズに。

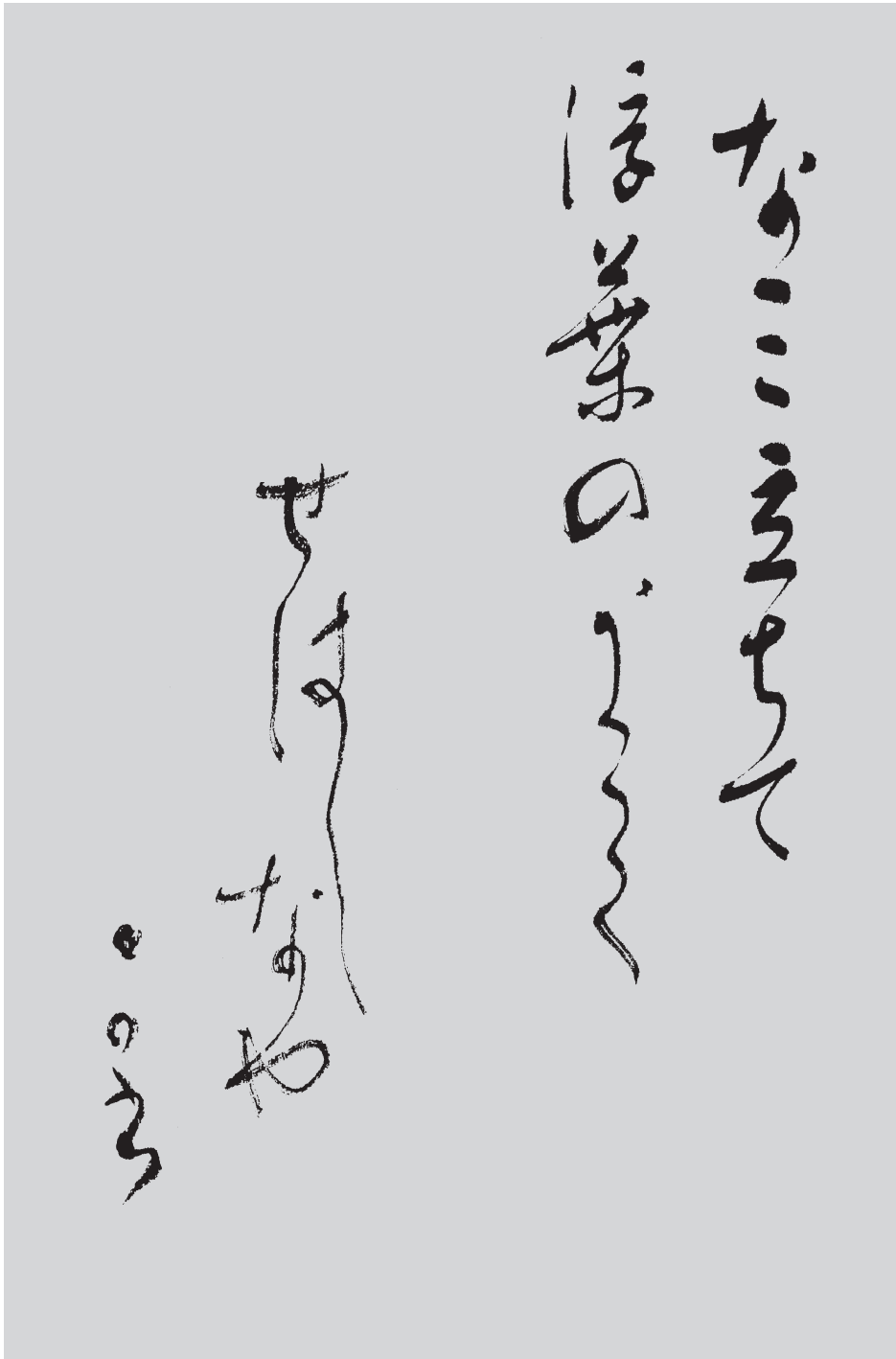


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

波立ちて浮葉の動くせはしなや(虚子)
な三立ちて浮葉のうこ久せはしなや



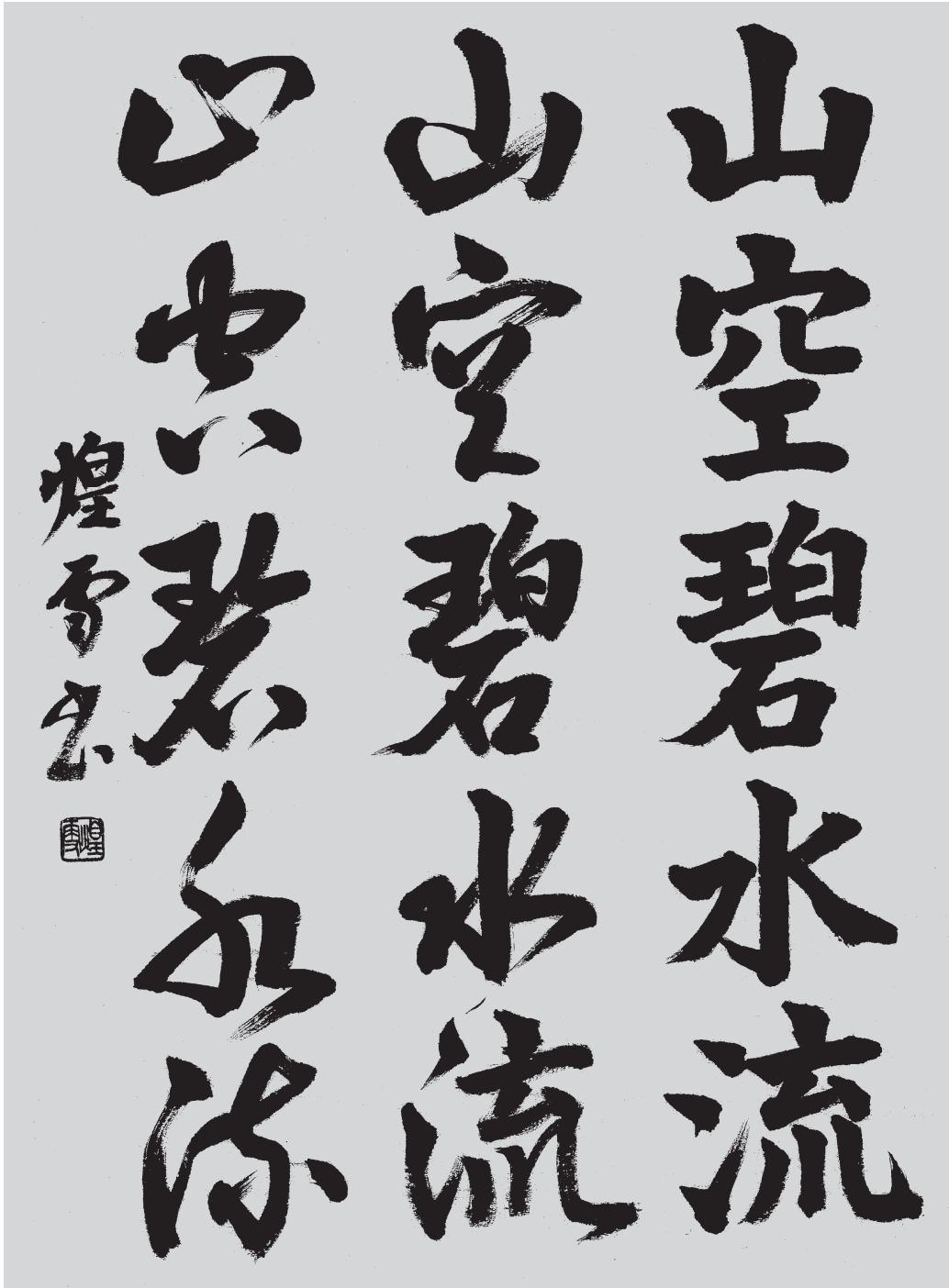
〈先ずは書いて味わいつつ解説〉
変体がなの使用「二文字、漢字三文字。初歩段階の人には適切な取り組みの課題。一行目、「な」から「三」へ連綿の手法は、古筆に多い。この三画はツンツンとリズム的に。二行目の「浮葉」硬くならぬようサラリと。「うこ久」クネクネとならぬように。三行目「せは」「はし」の長い線がポイント。「なや」をスッキリと。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は460円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

星野煌雪先生書

山空碧水流（李白）
山は空し碧水の流れ

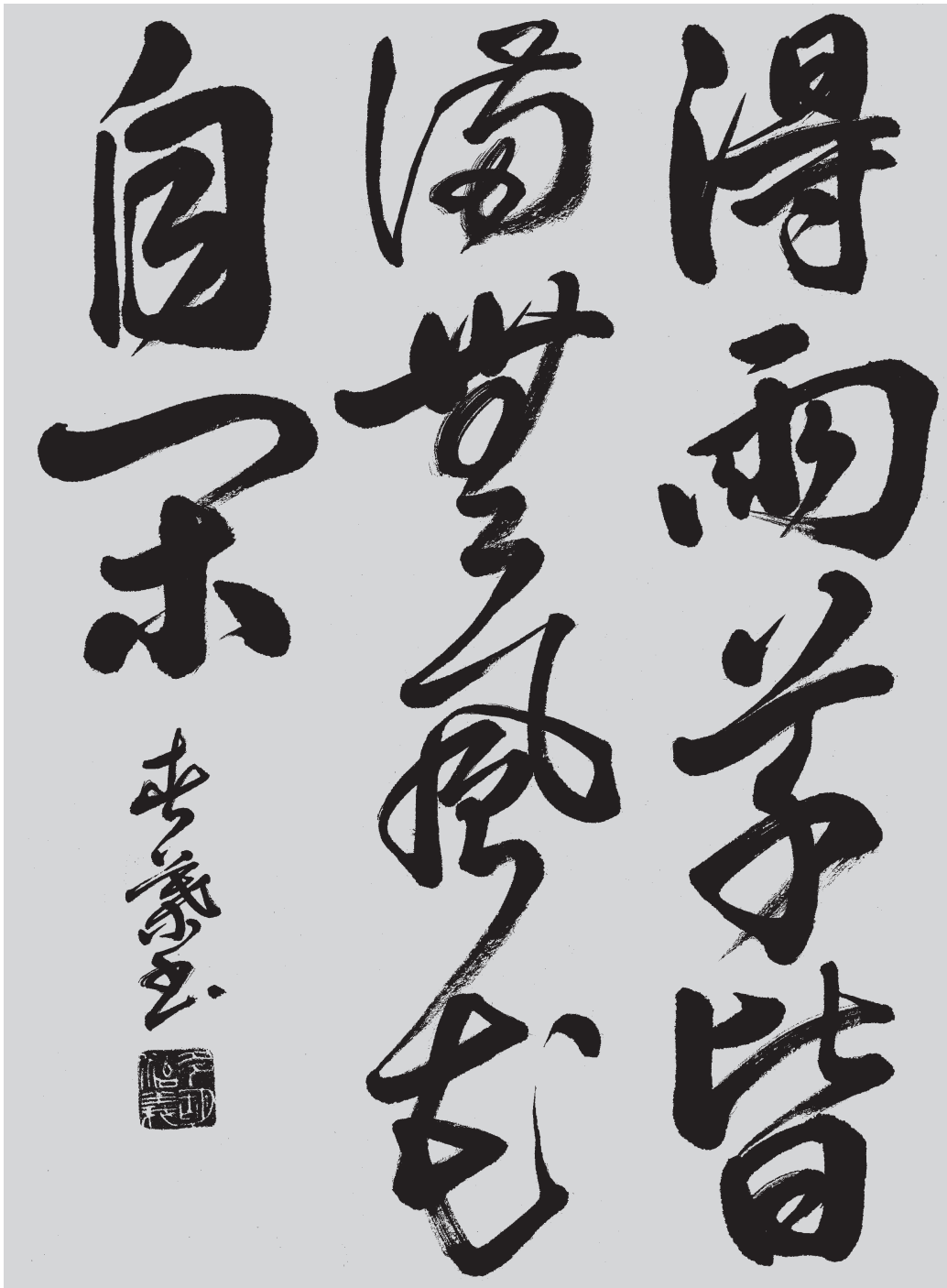


訳：人けのない山中には、碧い水だけが流れている。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円。

多
胡
春
葉
先
生
書

得雨草皆滿。無風花自閑。(沈石田)
雨を得て草皆滿ち、風無く花自ら閑なり。



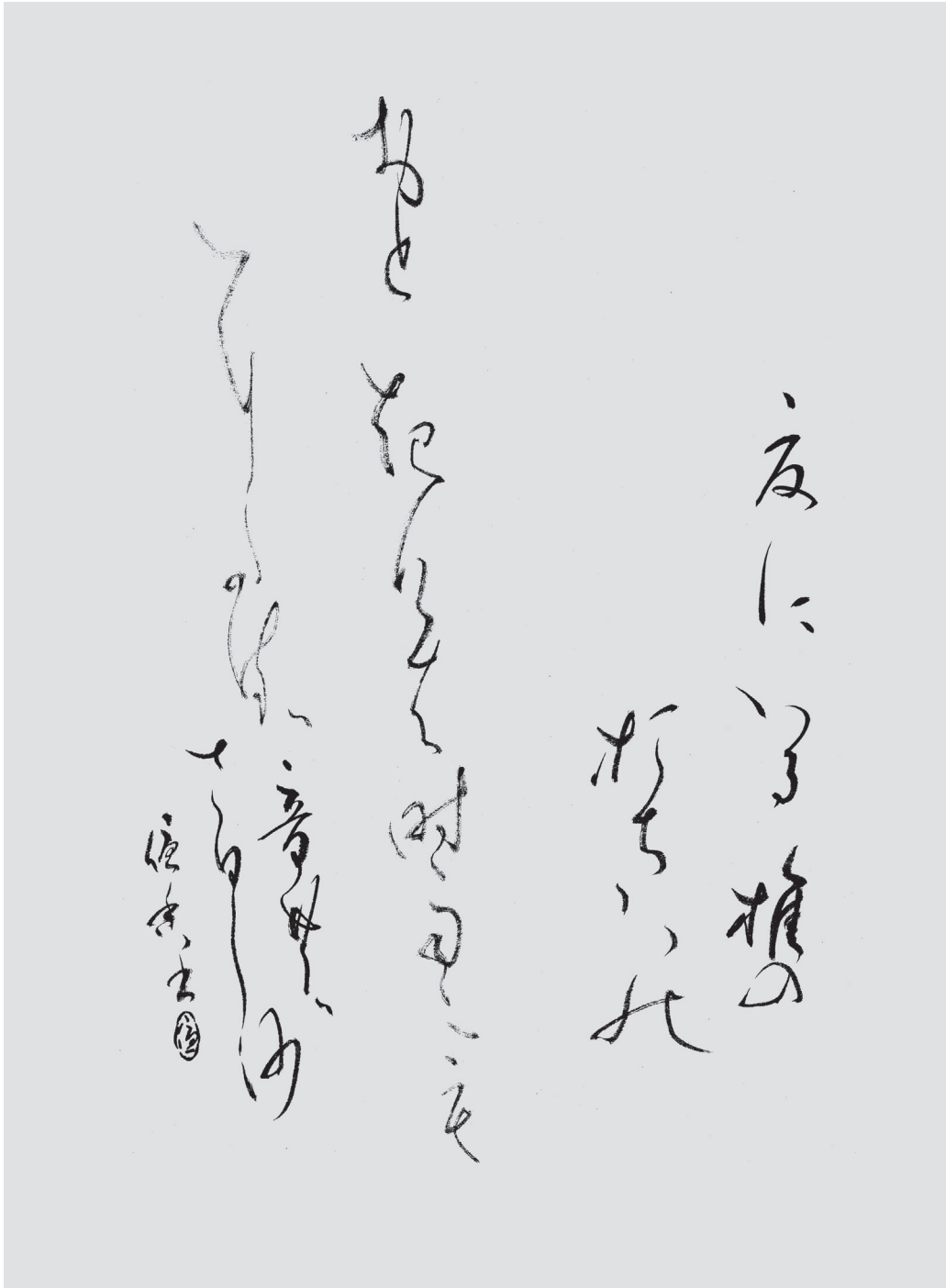
訳：雨が降って草は一面に生じ、風が吹かぬから花は自然にしずかである。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

随 意 部 参 考

本
澤
優
香
先
生
書

夏にいる椎しほの落葉のおと聴けば時雨しぐれにも似たる音のさびしさ（斎藤茂吉）
夏にいる椎の於ち八能おと起介者時雨二毛耳多流音農さ日し沙



1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は460円

湯澤春翠先生書

稲畑曄穂先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

雨の上高地はやはり美しくかった。
 中の湯あたりから谷が迫る景色が
 峻しく荒涼な鬼気を帯びて来る。

智恵子は遠くを見ながらこぼす。
 阿多多羅山の山の上に
 毎日出てくる青い空が
 智恵子のほんとの空だといふ。

課題 1 (初段階以上)

智恵子は遠くを見ながらこぼす。
 阿多多羅山の山の上に
 毎日出てくる青い空が
 智恵子のほんとの空だといふ。

『智恵子抄』高村光太郎

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段階以下)

雨の上高地はやはり美しかった。
 中の湯あたりから谷が迫って景色が峻しく荒涼な鬼気を帯びて来る。

『雨の上高地』寺田寅彦